

◆スイッチと組み合わせて画面を操作しよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態 <ul style="list-style-type: none">・小学部 肢体不自由・知的障害（脳性まひ）・対象物に視線を向けることはできるが、注視が難しい。・活動への意欲はあるが、表出することが難しいため、受け身になりやすい。
2 指導目標 <ul style="list-style-type: none">・教員からの声掛けに応じて、Keynote のスライドをスイッチ操作し、朝の会の流れを意識（して進行を行うことが）できる。
3 取組の中心となる教科・領域等 <ul style="list-style-type: none">・日常生活の指導（朝の会）
4 使用したアプリ、周辺機器 <ul style="list-style-type: none">・「Keynote」：朝の会進行スライド。画面変換時に効果音を設定。・iPad タッチャー ・ラッチタイマー ・棒スイッチ ・Apple TV
5 指導の経過及び児童生徒の変容 <p><指導の経過></p> <ul style="list-style-type: none">・指導期間 10月16日～12月20日・iPad を取り入れた学習には1学期から取り組んでいるが、画面を見ると緊張が入り体が反ってうまく操作ができなかった。・1か月間、友達が行う Keynote による司会活動を見ていて、大変興味をもっている。・装置は毎回同じものを使っている。（アシスティブタッチ機能－iPad タッチャー－ラッチタイマー－棒スイッチ）スイッチは児童の実態に合わせ棒スイッチを使うことにした。・Apple TV を使うことで、司会の児童が自由に移動できるようになり活動の幅が広がった。 <p><児童生徒の変容></p> <ul style="list-style-type: none">・1か月間、友達が司会を行う様子を見ていたことで、活動に見通しがもてていたため、過度に体に緊張が入ることなく、iPad の画面を注視し、司会活動を始めることができた。・スイッチの操作は、初めのうちは、押そうとする気持ちが強く、押す時に身体全体の緊張を利用していた。その後、児童の腕の動きにあったスイッチの押し方を模索しながら実践を重ねることで、児童も腕を意識して動かす様子が見えた。また、スイッチを目で確認する余裕もできた。・司会をしているときに、にこにこしながら友達やお母さんと呼んで「頑張ってるよ」「見て見て」と積極的にコミュニケーションをとろうとする様子も見られるようになった。
6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等） <ul style="list-style-type: none">・アシスティブタッチ機能の設定や、Apple TV、スライド操作時に効果音が鳴ることで、操作がうまくできたことを実感することができ、学習への意欲を継続させやすかった。

